第３章　区の文化政策の現状

１　豊富な文化資源

豊島区には、昭和初期から戦前にかけて、数多くの芸術家を輩出した「池袋モンパルナス」や、戦後、数々の俳優を養成してきた舞台芸術学院、若いマンガ家が夢と情熱を燃やした「トキワ荘」など、美術や文学、舞台芸術、映画、マンガ等の各分野で、活発な文化の創造活動が行われてきた歴史があります。また、各地域では、古くから伝わる行事や祭りを人々が大切に受け継いできました。ここでは、豊島区における代表的な文化資源、特徴的な文化集積を整理します。

○池袋モンパルナス

長崎・池袋西口界隈は、昭和初期に多くの芸術家たちが住んだことから、パリのモンパルナスにちなみ、詩人の小熊秀雄が「池袋モンパルナス」と名づけています。今日、区立熊谷守一美術館が往時をしのばせるほか、区立郷土資料館では関連資料を展示しています。また、区では、小熊秀雄など池袋モンパルナスゆかりの画家・彫刻家の作品を所蔵しています。

池袋モンパルナスへの道　齋藤求　作

○染井霊園・雑司ヶ谷霊園

染井霊園・雑司ヶ谷霊園は、緑あふれる憩いの空間であり、そこには明治・大正・昭和の文化人が数多く眠っています。主な著名人の墓として、染井霊園には岡倉天心、高村光太郎、二葉亭四迷など、雑司ヶ谷霊園には永井荷風、小泉八雲、泉鏡花、竹久夢二、夏目漱石、島村抱月、東郷青児などがあります。

雑司ヶ谷霊園

染井霊園

○マンガ文化

昭和 30 年代、椎名町の「トキワ荘」では若きマンガ家、手塚治虫、石ノ森章太郎、藤子不二雄Ⓐ、藤子・Ｆ・不二雄、赤塚不二夫などが創作活動を行い、現在のわが国のマンガ文化の源流として歴史に記憶されています。

記念碑「トキワ荘のヒーローたち」

○婦人之友社・自由学園明日館

西池袋界隈には羽仁吉一、もと子が創立した、大正デモクラシー期における自由教育運動の象徴である婦人之友社（明治 36 年）やアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが設計した自由学園明日館（大正 10 年）があります。現在、明日館ではコンサートや文化関連講座などを開催しています。

自由学園明日館

○児童文学

目白界隈は児童文学者の鈴木三重吉が住み、童話雑誌「赤い鳥」を創刊し（大正７年）、坪田譲治、北原白秋、菊池寛などに影響を与え、児童文学育成に大いに貢献しました。鈴木三重吉旧宅跡には、現在、目白千種画廊があります。また、目白図書館や雑司が谷旧宣教師館に「赤い鳥」文庫コーナーがあります。

○書店・出版関係

池袋駅周辺に大型書店が集積しています。また、区内には出版社も多く、豊島区の主要な文化産業の一つです。

○演劇関係

池袋、大塚周辺を中心として、劇場や演劇スタジオが数多く点在しています。

また、多くの俳優を輩出した舞台芸術学院や著名な劇団もあり、「演劇のまち」としての特長を活かし、「池袋演劇祭」や国際的な舞台芸術の祭典「フェスティバル / トーキョー」が開催されています。

○映画関係

昭和初期、西巣鴨（旧朝日中学校）には大都映画撮影所があり、池袋には人生坐、文芸坐といった名画坐があり、映画の大衆文化を育ててきました。また、立教、学習院大学からは著名な映画監督が数多く輩出されています。現在、映画館数は 23 区中６位（19 スクリーン）で、池袋シネマ振興会が中心となり、映画館のネットワーク化による地域の活性化と文化発信に取り組んでいます。

○音楽関係

豊島区には私立音楽大学ではわが国最古（明治 40 年）の歴史と伝統を誇る東京音楽大学があります。また、数多くの音楽スタジオがあるほか、池袋西口公園野外ステージでのライブ演奏や、おおつか音楽祭、池袋ジャズフェスティバルなど、数多くの音楽イベントが行われています。

○伝統工芸関係

明治以降、西早稲田・高田を流れる神田川付近は「友禅の町」として知られていました。現在も友禅の伝統工芸士は長崎や高田界隈に多く、そのほか銀器、彫金、籐工芸などの伝統工芸士が 21 名、区内各所で匠の技を今に伝えています。また池袋西口メトロポリタンプラザには全国伝統的工芸品センターがあり、作り手と使い手の交流の場として、さまざまな活動が行われています。

○外国文化関係

池袋には、中国、韓国、インド、ミャンマー、マレーシア、台湾、タイなど各国の料理店、雑貨店が多く、アジアを中心とした多文化に接することができます。また、平成 14 年度より大韓民国ソウル特別区東大門区と友好都市協定を結んでおり、少年野球を通じた日韓両国のスポーツ交流が行われています。

○文化施設・大学ホール

区立の文化施設として、あうるすぽっと（舞台芸術交流センター）・豊島公会堂・豊島区民センターなどがあり、都立の文化施設には東京芸術劇場があります。また、区内には６つの大学があり、ホール、図書館、研究所も重要な文化拠点として大きな役割をはたしています。

あうるすぽっと

東京芸術劇場

○美術館・博物館・資料館・図書館

区立熊谷守一美術館をはじめ、古代オリエント博物館や切手の博物館などの美術館・博物館、区立郷土資料館、雑司が谷旧宣教師館などの資料館が文化資源としてあげられます。また、池袋副都心エリアに立地する中央図書館は、年間利用者数が 100 万人を超える文字・活字文化の一大拠点となっています。

○企業による文化活動

昭和 53 年にオープンしたサンシャインシティは、わが国の都市再開発の先駆的役割を担ってきました。国際水族館、プラネタリウムをはじめ、劇場、博物館などの文化施設のほか、公共公益施設やホテルなど、さまざまな機能を併せ持つ都市空間として、30 年経った現在でも活気に満ち溢れています。

また、かつては、独特のテーマで多くのファンが訪れた西武美術館（のちセゾン美術館）や東武美術館が、百貨店の枠を超えた文化活動を展開してきました。現在も、ギャラリー、画廊を有し、池袋副都心のにぎわい創出と文化的土壌の形成に貢献しています。

○神社仏閣・記念碑・お祭り

大塚、巣鴨、駒込、雑司が谷、目白、高田、長崎地域は神社仏閣が多い地域です。長崎神社に伝わる獅子舞の「長崎獅子舞」は、豊島区に残る郷土芸能として、区の無形民俗文化財第１号に指定されました。また、古くから信仰に支えられてきた「御会式」「巣鴨高岩寺縁日」のような伝統ある行事や、近年地域の活力の源となっている「大塚阿波踊り」「ふくろ祭り」などのお祭りが区内各所で行われています。

長崎獅子舞

御会式

２　区民・NPO 等の文化活動

区内には、各分野の専門家による文化芸術団体だけでなく、区民が文化芸術に親しむ生涯学習団体があります。生涯学習団体は、区民自身が主体的に学ぶことを目的とした団体で、そのうち、音楽、演劇、舞踊等の文化芸術分野の団体数は 400 を超えています（平成 21 年３月 31 日現在）。

これらの団体は、区内の地域文化創造館等で活動し、文化祭等で日頃の成果を発表するなど、文化芸術団体とともに地域における文化芸術活動の一翼を担っています。

地域文化創造館は、かつて「社会教育会館」の名称で、多くの区民に生涯学習、文化活動、地域コミュニティ形成の場を提供してきました。平成 18 年度より、文化によるまちづくりをより積極的に支援していくため施設名称を変更しています。それぞれが地域文化を創造し発信する学習活動・文化創造活動の拠点として、大きな役割を果たしています。

一方、区内で活動する文化芸術、スポーツ分野の NPO 法人は、８９を数えます（平成２１年１月１日現在）。にしすがも創造舎における演劇公演やワークショップ、「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」など、NPO 法人と区との連携によって豊島区ならではの文化芸術活動が展開されています。

３　これまでの取り組み

（１）文化芸術創造環境づくり

①あうるすぽっと（舞台芸術交流センター）・新中央図書館のオープン

平成 19 年、東池袋四丁目市街地再開発事業地区に、301 席の新劇場あうるすぽっと（舞台芸術交流センター）及び新中央図書館がオープンしました。

あうるすぽっとは、本格的な舞台芸術のための上質な空間と設備を備えた劇場です。（財）としま未来文化財団が指定管理者として、オリジナル作品や提携・共催公演などの創造事業のほか、ワークショップなどの育成事業を展開しています。

新中央図書館は、IT 化図書館として IC タグの導入と IT 席の設置を行い、夜 10 時まで開館するなど 21 世紀にふさわしい図書館運営を行っており、年間利用者は 100 万人を超えています。あうるすぽっとの公演に関連した企画展示を実施するなど、新たな文化芸術の創造・発信拠点並びに情報センターとして、池袋副都心のにぎわいを演出しています。

②にしすがも創造舎の展開

にしすがも創造舎は、国の「地域再生計画」の認定を受け、学校閉校施設を活用した文化芸術創造拠点です。NPO 法人「アートネットワーク・ジャパン」及び「芸術家と子どもたち」が区との協働により運営しています。公募による劇団等への稽古場の提供、子どもたちのワークショップや地域との交流事業を展開しています。

③舞台芸術プログラムの充実

「演劇」による街のイメージアップと地域の活性化をめざし、昭和 63 年に「東京国際演劇祭」が、また翌平成元年から「池袋演劇祭」がスタートしました。

「池袋演劇祭」は、毎年９月、区内の各劇場を舞台に多くの劇団が競演する演劇祭として定着しており、豊島区舞台芸術振興会が主催しています。平成 20 年には、「池袋演劇祭 20 周年記念・あうるすぽっと１周年記念」として、（財）としま未来文化財団とともに、豊島区初のオリジナル作品「池袋わが町」（ジェームス三木作・演出）を上演し、翌 21 年には、同作品の山形県遊佐町、長野県箕輪町、三重県名張市での公演を実現し、区の友好都市との文化交流を行っています。

また、「東京国際演劇祭」は、NPO が主催する「東京国際芸術祭」の時代を経て、平成 20 年より、東京文化発信プロジェクト「フェスティバル / トーキョー」（東京都、東京都歴史文化財団、豊島区、（財）としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン共催）として展開しています。期間中には、東京芸術劇場、にしすがも創造舎、あうるすぽっとを主要会場として、「演劇のまち　池袋」から東京の文化的魅力を世界に発信し、都市のにぎわいを演出しています。

④文化フォーラム

前述の文化政策懇話会提言で示された施策の方向のひとつである「芸術文化創造環境づくり」の一環として、「文化の担い手、推進者等の人材育成」を図るため、平成 16 年より「としま文化フォーラム」（顧問：福原義春㈱資生堂名誉会長、塾長：小田島雄志東京芸術劇場館長（現名誉館長）、副塾長：高野之夫豊島区長）を開催しています。

これは、毎回各分野の第一線で活躍する文化人を講師として招き、これからの文化のあり方を参加者とともに考えていこうとするものです。特別講演会を含めて、平成 16 年度第１期（平成 16 年４月）から平成 21 年度第１期（平成 21 年７月）まで通算 78 回の開催、参加者数は延べ 9,200 人を数えています。

⑤文化ボランティアの育成

文化によるまちづくりの一環として、地域で活動する文化ボランティアを育成しています。「読み聞かせボランティア養成講座」や、文化ボランティアの意義と活動を知る「文化ボランティアセミナー」等を実施しています。また、継続的な地域活動をサポートするネットワーク構築のため、交流会の実施や「読み聞かせボランティア通信」の発行を行っています。

今後は、劇場、美術館、音楽祭、各種イベント等でのフロントスタッフやサポーターとしての活動も視野に入れた育成を図っていきます。

⑥子どものための文化体験事業

子どもに地域の歴史や文化資源を伝え、郷土への誇りと愛着が育まれていくことをめざして、伝統芸能や優れた舞台芸術を体験する機会を提供しています。

区内文化団体の協力により、区内小学生対象の邦楽鑑賞教室と、小中学生対象のオーケストラ鑑賞教室を開催しています。

また、NPO 法人による区立保育園への派遣型ワークショップに加え、「にしすがも創造舎」において「にしすがもアート夏まつり」の一環として、区と NPO との協働により、子どもを対象とした演劇公演並びに関連ワークショップを実施しています。

⑦財団法人としま未来文化財団

昭和 60 年、区民の連帯とコミュニティ育成の推進を目的に、財団法人豊島区コミュニティ振興公社が発足しました。コミュニティ施設における区民活動への支援事業や、豊島公会堂、豊島区民センター、東京芸術劇場などにおける文化芸術事業を実施し、地域におけるコミュニティの活性化のみならず区の文化政策の一翼を担ってきました。

平成 17 年には、財団法人豊島区街づくり公社と統合し、豊かな区民生活と活力ある地域社会を形成するため、新たに「財団法人としま未来文化財団」が設立されました。文化によるまちづくりに向けて、文化創造と創造都市の視点を柱に、次のような総合的なまちづくりに貢献する新たな事業を展開し、発信しています。

○文化芸術の創造

豊島区民センター、豊島公会堂、地域文化創造館、勤労福祉会館、あうるすぽっとや東京芸術劇場等で、低廉で良質な魅力ある公演の提供を基本として、区民のニーズに応える内容の充実、区の文化政策に資する事業など、コーディネート力を発揮することにより、さらなる魅力度アップを図っています。

○まちの魅力づくり

まちづくりに文化の視点を取り込んだ「まちづくりバンク」等、多種多様な事業を展開するなど、地域力・地域の魅力の創出に取り組んでいます。

○地域等との連携・協働

地域ブランドづくり、地域団体等の文化催事等、企画段階から積極的に参画するなど、財団をあげて豊かな地域力・文化力を生み出す活動を展開しています。

○各友好都市等との交流事業

各友好都市等と多種多様な事業を展開し、年々交流の絆を深めています。

（2）パブリックライフを楽しめる環境づくり

①「広場・公園・通り」を文化活動の場として活用

池袋西口公園ステージにおけるバレエ公演や、東京フラフェスタ in 池袋、ジャズフェスティバル等、文化芸術の創造空間として、公園・広場を活用しています。また、グリーン大通りでのオープンカフェを社会実験として行いました。

②文化施設（公・民）の機能の活性化と連携

あうるすぽっと、にしすがも創造舎では、ワークショップやアウトリーチ活動など、芸術家と

観客・区民をつなぐための取り組みを行っています。

また、区内の劇場（公・民）が連携して、池袋演劇祭やフェスティバル / トーキョーを開催しています。

（3）豊島区らしい風景づくり

①江戸川乱歩と大衆の 20 世紀展

平成 16 年に、立教学院･立教大学主催による「江戸川乱歩と大衆の 20 世紀展」が開催され、入場者数は２万３千人にのぼりました。

この展覧会にあわせ、池袋各書店でのブックフェア、新文芸坐での乱歩映画祭、池袋演芸場での乱歩新作落語口演等々、街全体を会場にしたさまざまな企画が同時進行し、多くの人々が池袋の街を訪れました。

また、あわせて保存・修復がなされた旧江戸川乱歩邸土蔵（豊島区文化財指定）も特別公開されました。現在、「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」の回遊場所の一つとなっています。

②芸術・文化アーカイブス

地域の歴史・文化の再生と新たな文化の創出に向けて、「アトリエ村資料室」及び「にしすがも創造舎」に芸術・文化アーカイブスを開設しています。

「アトリエ村資料室」は、区民活動団体である「アトリエ村資料室の会」と区との協働事業として、平成 17 年 11 月に西部区民事務所の３階に開設しました。「長崎アトリエ村」「池袋モンパルナス」関連の資料を収集・展示するほか、年２、３回の特別展示を実施しています。

また、「にしすがも創造舎　舞台芸術アーカイブ」は、平成 18 年９月、「にしすがも創造舎」の２階に開設しました。運営は NPO 法人アートネットワーク・ジャパンに委託し、演劇・ダンス等、舞台芸術関連の書籍、公演パンフレット、雑誌のバックナンバー等を収集･展示しています。

③ 区立熊谷守一美術館の設置

熊谷守一美術館は、守一氏が 45 年間住み続けた豊島区千早の旧宅跡に、昭和 60 年５月、次女の榧（かや）氏により個人美術館として開設されました。その後、平成 19 年 11 月、榧氏より守一作品 153 点の寄贈を受け、新たに区立美術館として開館しました。

守一作品の常設展示のほか、利用できるギャラリースペースを備え、デッサン会や講演会など、区民が美術文化に親しめる事業を展開しています。

「長崎アトリエ村」「池袋モンパルナス」の歴史を受け継ぐ美術の文化拠点として、「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」など、さまざまな美術文化事業と連携した展開を進めています。

④ 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館　～「街全体が美術館」

「池袋モンパルナス」の歴史的価値を踏まえ、NPO 法人「ゼファー池袋まちづくり」、立教大学、東武百貨店等関係団体の協力により、区民が街を回遊しながら芸術作品を気軽に楽しめる機会をつくっています。「街全体が美術館」をコンセプトに、街の至るところでさまざまな画家や子どもたちの多彩な美術作品を鑑賞できると同時に、若い芸術家の育成や文化によるまちづくりを推進しています。

⑤ 地域ブランド創出

各地域の持つ特徴を活かしながら、住み続けたいまち、訪れたいまちとして、まちの魅力を地域のブランドへ高めていく取り組みを進めています。

学習院大学がある緑豊かな目白、ソメイヨシノ発祥の駒込、かつて「長崎アトリエ村」と称された旧長崎町（現在の長崎、千早、千川周辺）、地域でオリジナル商品を開発して地域活性化に取り組んでいる大塚、巣鴨など、区民をはじめ、多様な参加と協働により地域の魅力あるまちづくりを展開しています。

⑥「広場・公園・通り」を文化活動の場として活用（再掲）

池袋西口公園ステージにおけるバレエ公演や、東京フラフェスタ in 池袋、ジャズフェスティバル等、文化芸術の創造空間として、公園・広場を活用しています。また、グリーン大通りでのオープンカフェを社会実験として行いました。

⑦池袋副都心・グランドビジョン 2008

平成 20 年 6 月 25 日、豊島区は「池袋副都心・グランドビジョン 2008」を発表しましました。これまでの文化政策に加え「人と環境へのやさしさ」をコンセプトとして新たなグランドビジョンを描き、地域と行政が目標を共有しながら、東京において個性を発揮する都市づくりを進めていきます。

４　地域別概要

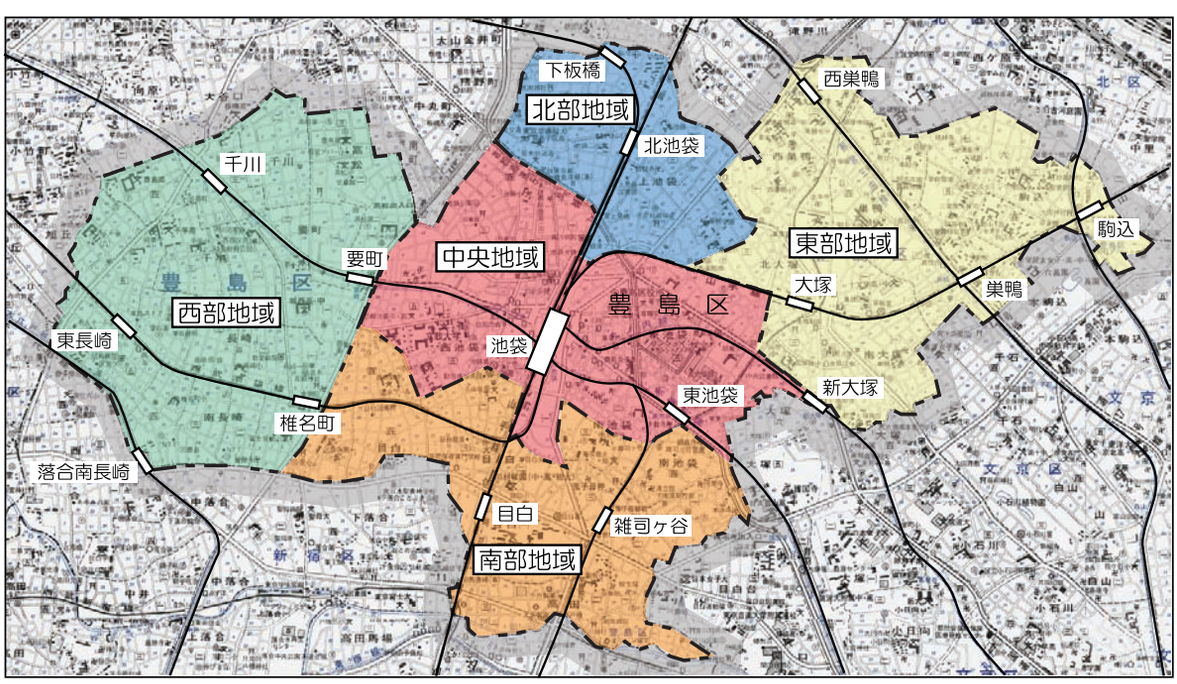
各地域には、それぞれ固有の歴史や文化があり、文化政策を推進していくうえで、こうした地域特性を活かした施策を展開していくことが重要です。

このため、区の実施計画である「豊島区未来戦略推進プラン」の地域区分に基づき、次の６つの視点から各地域の文化的特徴を整理します。

①地域の概況
②歴史・文化の変遷
③人口の構成と動き
（平成 21 年 1 月現在）
④土地利用、施設分布
⑤交通・回遊ネットワーク
⑥文化活動、イベント

地域区分

	区　域	含まれる地域
東部地域	大塚・巣鴨・駒込駅を中心に広がる地域	駒込、巣鴨、西巣鴨、北大塚、南大塚
北部地域	概ね川越街道以北の地域	上池袋、池袋本町
中央地域	池袋駅を中心とする地域	東池袋、南池袋（一部）、西池袋（一部）、池袋
南部地域	目白駅を中心とする地域	雑司が谷、高田、目白、南池袋（一部）、西池袋（一部）
西部地域	山手通りの西側地域	南長崎、長崎、千早、要町、高松、千川

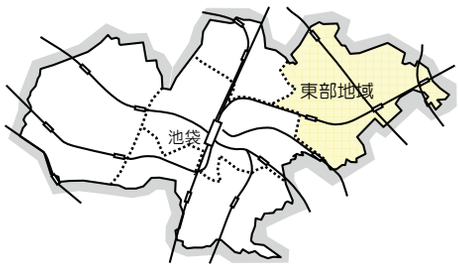


（１）東部地域

①地域の概況

豊島区の東側に位置するJR山手線の駒込、巣鴨、大塚駅周辺に開けた地域で、山手線と交差する地下鉄や、白山通り、春日通りなどの幹線道路により東京都心部へのアクセスのよい地域です。

この地域は、駒込・染井のソメイヨシノや、巣鴨地蔵通りのにぎわいなどの庶民的な文化が花開いた個性ある街が形成されています。



■代表的な歴史的トピック

～江戸	・植木のまちとして繁栄 ・染井の植木職人がソメイヨシノを交配、育成 ・巣鴨庚申塚近隣の農家がサクラソウを栽培
明治・大正	・染井霊園開園(M5) ・とげぬき地蔵が巣鴨へ移転(M24) ・明治女学校巣鴨へ移転(M30) ・日本鉄道豊島線(現山手線)開業(M36) ・大正大学開校(M41) ・王子電車(都電荒川線)開業(M43)
昭和	・女子栄養大学開校(S25) ・都営三田線開業(S43) ・地蔵通り商店街がおばあちゃんの原宿として人気を集める
平成	・南北線開業(H3)

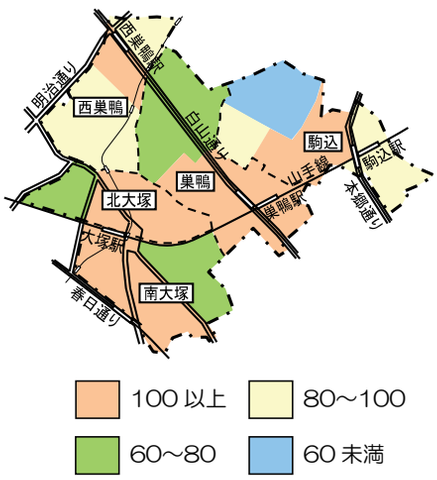
②歴史・文化の変遷

駒込は江戸時代に植木の街として栄えた地域で、ソメイヨシノ発祥の地です。染井霊園に多くの文化人、芸術家が眠る歴史、文学、芸術の趣のある地域であり、駒込の歴史・文化を活かしたまちづくりを推進しています。

巣鴨は中山道沿いに形成された門前町で、旧中山道の巣鴨地蔵通り商店街は、「おばあちゃんの原宿」で知られ、高い人気を誇っています。西巣鴨は、巣鴨庚申塚や多くの寺社を残す寺町として落ち着いた雰囲気を有しています。明治女学校の記念碑や大正大学があり、隣接地には江戸時代に飲料水にするために引いた千川上水の調節池跡である千川上水公園があります。

大塚は戦前まで、駅周辺に劇場や映画館を有する都内有数の繁華街で、立教、学習院、早稲田の学生も集まり、娯楽によってにぎわった地域です。

■昼夜間人口比



昼夜間人口比=昼間人口／夜間人口×100

③人口の構成と動き

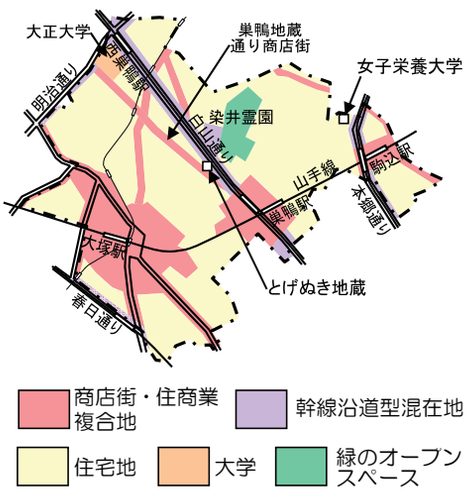
総人口約66,000人、総世帯数約38,000世帯で、各駅の周辺に商業地を抱えることから、地域全体でも夜間人口より昼間人口の方が多く、JR山手線沿線は昼間人口の比率が高くなっています。その中でも大塚は、繁華街として栄えた歴史もあり、昼間人口の規模や密度が特に高くなっています。

④土地利用、施設分布

大塚駅周辺は戦前に池袋をしのぐ繁華街、歓楽街として飛躍的に発展したまちで、現在もこの地域最大の商業地を形成しています。また巣鴨地蔵通り商店街など、独自の様相を持った商業地が点在しています。

染井霊園はソメイヨシノの名所として桜祭りが開かれるなど、地域の貴重な歴史や文化、憩いの場として親しまれています。

■土地利用構成

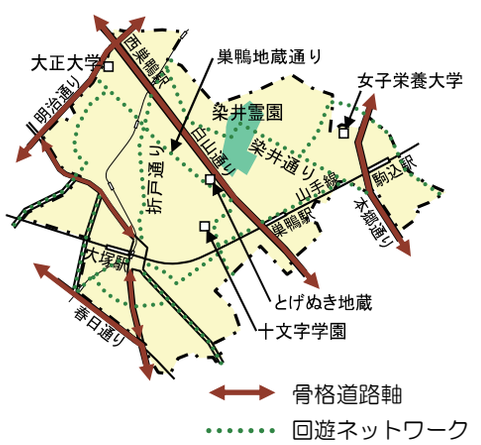


⑤交通・回遊ネットワーク

道路交通は環状線の明治通り、放射線の本郷通り、白山通り、春日通りで骨格を形成しており、南北に通る都電荒川線が区民の足として、多くの人に利用されています。

旧中山道の地蔵通り、駒込駅と染井霊園をつなぐ染井通りなど、旧道、旧街道が歩行者の回遊ネットワークとして生きており、特に年間 1,000 万人が訪れる地蔵通りは、主要回遊軸となっています。平成 21 年には大塚駅の南北自由通路が開通し、回遊性の向上が図られています。

■ネットワーク構成



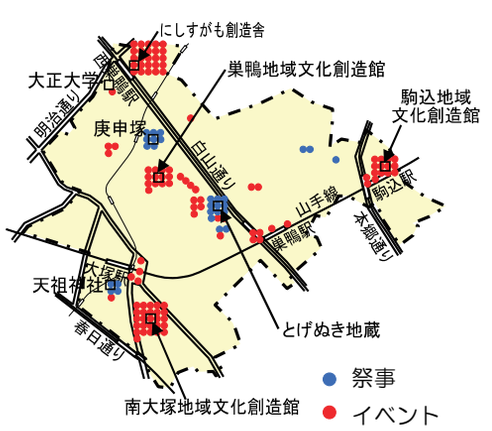
⑥文化活動、イベント

西巣鴨には、かつて大都映画巣鴨撮影所（大正８年設立）がありました。その跡地は後に区立朝日中学校になり、現在はにしすがも創造舎となって、地域との交流事業や文化芸術創造活動が展開されています。

高岩寺（とげぬき地蔵）の縁日には区外からも多くの人が訪れ、地蔵通りがたいへんにぎわいます。また、地域の鎮守である大塚の天祖神社、西巣鴨の庚申塚などの祭事が継承されています。巣鴨庚申塚近隣は江戸時代はサクラソウの栽培地であったため、さくらそうフェアが行われています。

南大塚、巣鴨、駒込の地域文化創造館などの施設では文化活動が盛んに行われています。大塚駅前の大塚阿波踊りは４０年近い歴史をもつ、地域に定着した大イベントです。

■祭事・イベント開催地



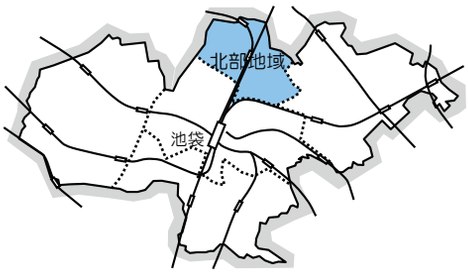
注：点は個別の祭事・イベントの開催数を示す

（２）北部地域

①地域の概況

池袋副都心の北に位置する概ね川越街道から北側に当たる地域で、JR 埼京線の板橋駅、東武東上線の北池袋駅、下板橋駅の３駅が近接する鉄道の利便性の高い地域です。

生活圏としては、隣接する板橋区とのつながりも強く、住宅地として発展してきました。



■代表的な歴史的トピック

～江戸	・大名領と寺院領の新田開発 ・重林寺建立 ・旧池袋村の中心的集落が存在
明治・大正	・赤羽線開業、板橋駅開設(M18) ・下板橋駅開業(T3)
昭和	・北池袋駅開業(S9) ・昭和鉄道高校移転(S15) ・埼京線運転開始(S60)
平成	・健康プラザとしま開設(H11) ・新豊島清掃事務所竣工(H16)

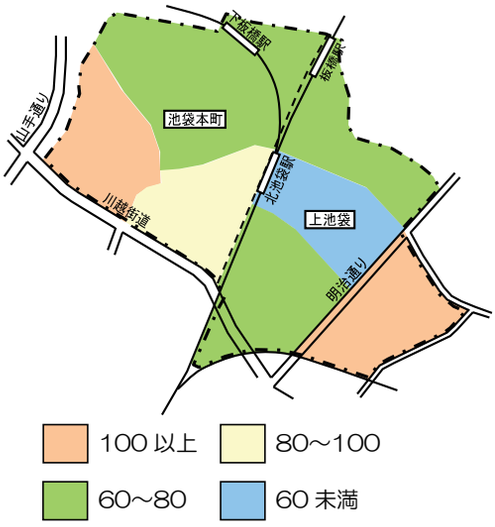
②歴史・文化の変遷

江戸時代は大名領と寺院領が複雑に入り交じり、その中で新田開発が行われてきました。川越街道に面する重林寺は、慶安３年（1650 年）に建立された、この地域を代表する古刹です。重林寺のある池袋本町は明治期まで池袋付近の中心的な集落があったため、本村と呼ばれていました。池袋本町という地名はその名残です。

大正時代に耕地整理された後、市街化が進みましたが､戦災により町の大半が焼失しました。戦後は、そのまま木造住宅や木造アパートが建ち並ぶ密集市街地となっています。

また、昭和１５年に開校した昭和鉄道高校は、日本で数少ない鉄道・交通教育の場です。

■昼夜間人口比



昼夜間人口比=昼間人口／夜間人口×100

③人口の構成と動き

総人口約 30,000 人、総世帯数約 17,000 世帯で、区内では最も人口密度の高い地域です。

地域全体では夜間人口の方が多くなっていますが、川越街道や明治通りの沿道で商業業務施設の立地が進んだことから、一部では昼間人口の方が多くなっています。

近年は住民同士のコミュニケーションを重視し、昔ながらの祭事やイベントを活用して、住宅地におけるふれあいを広げていく試みが行われています。

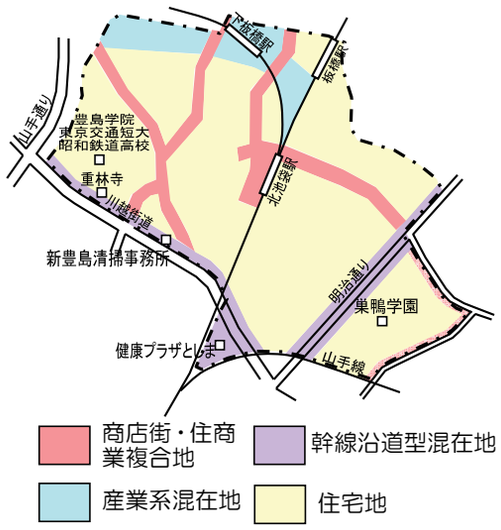
④土地利用、施設分布

全体が住宅地で構成されていますが、北池袋駅周辺や、川越街道と下板橋駅、明治通りと北池袋駅を結ぶ区道などの沿道に商店街が形成されています。

近年は、川越街道や明治通り沿いに中高層マンションの建設が進み、街の様相が変化してきていますが、重林寺は昔ながらの豊かな緑を残しています。また、この地域は昭和鉄道高校や東京交通短大などがあり、鉄道ファンや関係者にとって興味深い地域です。

地域の一番南側には「健康プラザとしま」が平成11年にオープンし、健康、福祉、スポーツ、コミュニティ活動の複合的な拠点として利用されています。

■土地利用構成



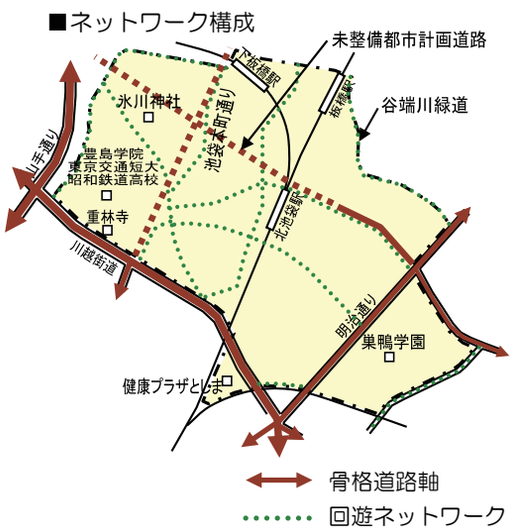
⑤交通・回遊ネットワーク

JR埼京線と東武東上線が南北に通り、山手通り、川越街道、明治通りで道路骨格を形成しています。

地域の西側と北側の外周には、谷端川緑道が通り、歩行者回遊動線となっています。地域内は、川越街道と下板橋駅を結ぶ池袋本町通りや北池袋駅と明治通りを結ぶ区道が主要な回遊軸になっています。

現在、２路線の未整備都市計画道路があり、これらの路線の整備により、骨格となる回遊軸の形成が期待されます。

■ネットワーク構成



⑥文化活動、イベント

この地域の鎮守である氷川神社の祭礼が主な祭事として挙げられます。

また、健康プラザとしま内の上池袋コミュニティセンターや区民ひろばで行われるイベントのほか、池袋本町４商店街合同による「池袋本町ふれあい祭り」が行われています。地域の子どもが参加する相撲大会のほか、平成19年夏からは区の友好都市の山形県遊佐町の物産を販売する「遊佐の市」も開催されています。さらに平成21年からは朝顔市も行われるなど、地域をあげたイベントが積極的に展開されています。

■祭事・イベント開催地

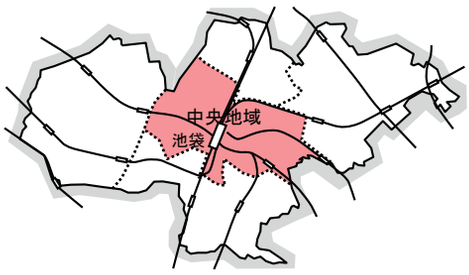
注：点は個別の祭事・イベントの開催数を示す

（３）中央地域

①地域の概況

国内有数のターミナル駅である池袋駅を核として発展した地域です。池袋駅はＪＲ、東武線、西武線、東京メトロの地下鉄が集中し、都心と埼玉、栃木、群馬の各県をつなぐ北関東のゲートウエイでもあります。

商業・業務・行政機能の集積と、多彩な文化機能を備えた一大都市拠点であり、文化創造都市としまを牽引する地域です。



②歴史・文化の変遷

この地域の変化は、明治３６年に池袋駅が設置されたことに始まり、大正３、４年に現在の東武東上線、西武池袋線が相次いで開業したことで、ターミナル機能を持つようになりました。大正末期、池袋モンパルナスと呼ばれる芸術や文化の談論の場が生まれ、終戦まで続きました。戦後の復興期には、駅前のヤミ市により日常生活を満たす庶民文化の１ページを刻みますが、戦後の復興後、地の利を活かした歓楽街として映画館、小劇場などの立地が進みました。

その後、サンシャインシティ、池袋パルコ、セゾン美術館、東京芸術劇場、東武美術館など、さまざまな文化発信が行われました。現在では活字文化の源泉となる大型書店が複数出店しており、また乙女ロードと称されるマンガ、アニメ文化の集積が見られるなど、サブカルチャーも生まれています。

■代表的な歴史的トピック

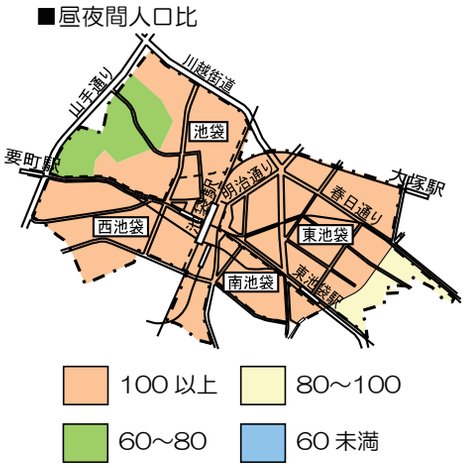
～江戸	・雑木林と耕地が広がる地域
明治・大正	・日本鉄道豊島線(現山手線)池袋駅開業(M36) ・東上鉄道(東武東上線)開業(T3) ・武蔵野鉄道(西武池袋線)開業(T4) ・立教大学が西池袋に移転(T7) ・関東大震災後に人口流入
昭和	・池袋モンパルナスとして多くの芸術家が集まる ・豊島区制施行(S7) ・戦後、池袋駅前にヤミ市が形成 ・丸ノ内線開業(S29) ・池袋を副都心に指定(S33) ・有楽町線開業(S49) ・ｻﾝｼｬｲﾝｼﾃｨ ｵｰﾌﾟﾝ(S53) ・埼京線運転開始(S60)
平成	・東京芸術劇場開館(H2) ・東池袋四丁目再開発竣工(H19)（あうるすぽっとオープン） ・帝京平成大学開校(H20) ・副都心線開業(H20) ・エチカ池袋オープン(H21)

③人口の構成と動き

総人口約 40,000 人、世帯数約 26,000 世帯で、昼間人口は夜間人口の約５倍に達し、特に池袋駅前及びサンシャインシティに集中しています。

国内有数のターミナル池袋駅の 263 万人 / 日の乗降客数と企業集積により多くの企業市民を抱えるこの地域は、今後文化活動を展開していく上で大きな可能性を秘めています。

■昼夜間人口比



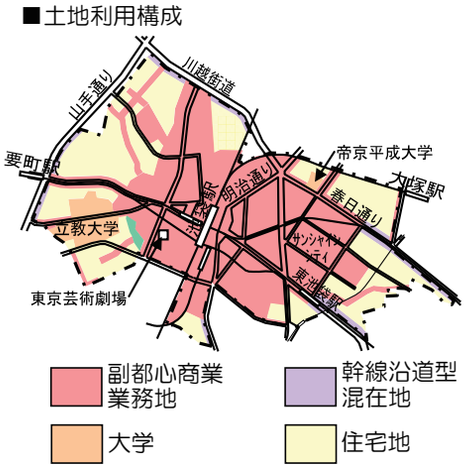
昼夜間人口比=昼間人口／夜間人口×100

④土地利用、施設分布

池袋駅の東口は駅前の大型百貨店、大型量販店からサンシャインシティに至るまで商業・業務施設が集積しています。中央図書館、あうるすぽっと（区立舞台芸術交流センター）を含む東池袋の再開発や新庁舎建設計画、新たな公共交通システムの導入計画など、都市文化拠点整備が進められています。

西口は、大型百貨店、西池袋の歓楽街、東京芸術劇場、池袋西口公園、立教大学など、商業施設や文化教育施設の集積が進むなか、西口駅前広場整備、エチカ池袋、エソラ池袋のオープンなど、駅周辺での新たな都市文化発信が始まっています。

■土地利用構成

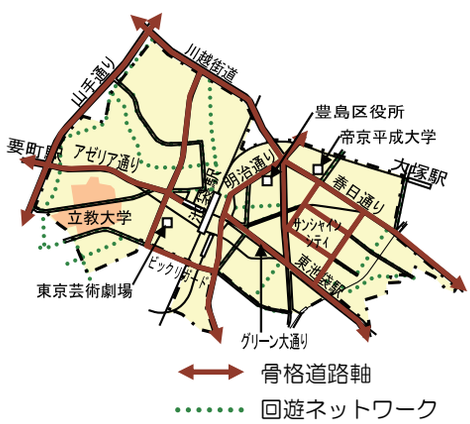


⑤交通・回遊ネットワーク

池袋における歩行者の回遊は、駅周辺に集中しており、池袋駅からサンシャインシティまでの動線など、ピストン的な単純動線が目立ち、広がりを持っていません。また鉄道による分断の影響で池袋駅の東西の動線には一体性がなく、回遊性が低いのが現状です。

池袋駅の 263 万人 / 日もの乗降客には多大な交流人口が潜在しており、乗降客を来街者として引き出し、回遊を促すため、東西デッキの整備や新たな公共交通システムの導入など人々を街に引き入れるための魅力づくり、イメージアップの仕掛けづくりが進められています。

■ネットワーク構成

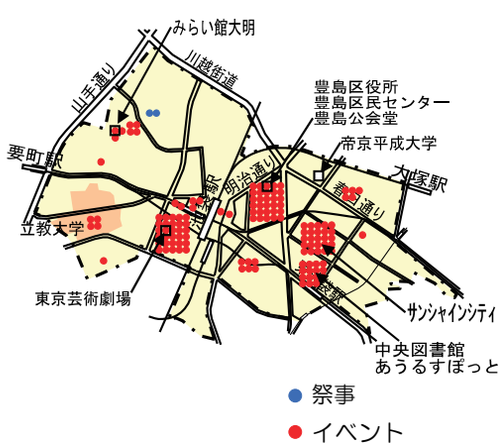


⑥文化活動、イベント

東京芸術劇場、サンシャインシティ、豊島区民センター、豊島公会堂、中央図書館、あうるすぽっと、区民ひろば、みらい館大明、民間ギャラリー、劇場等で多彩な文化イベントが行われています。街全体を文化芸術空間とすべく、通りや公園などの公共空間も文化創造、活動の場として積極的に活用されています。

北関東のゲートウエイであることから全国のふるさと文化が集結、発信する場として、また多くの外国人が住み、訪れる地域でもあることから異文化交流の場として、多様な価値観を創造する文化拠点としての展開が期待されます。

■祭事・イベント開催地



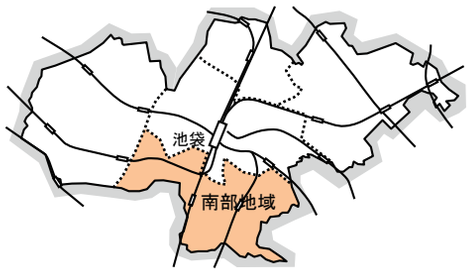
注：点は個別の祭事・イベントの開催数を示す

（4）南部地域

①地域の概況

池袋副都心の南側に広がる、雑司が谷と目白、高田を代表とする地域で、JR 目白駅、東京メトロ東池袋駅、雑司が谷駅があり、都電荒川線も通っています。

雑司が谷は江戸の頃より形成された寺町で、歴史文化に恵まれた住宅地です。また目白は、山の手の文化の香り漂う地域で、学園町としての性格も有しています。高田は、東京で最も急と言われる「のぞき坂」などの坂やお寺が集まっています。このように歴史と文化、坂と緑に象徴される地域です。



■代表的な歴史的トピック

～江戸	・雑司が谷鬼子母神参りが盛んで江戸の名所となる
明治・大正	・雑司ヶ谷霊園開園(M7) ・目白駅開設(M18) ・学習院大学が目白に移転(M41) ・自由学園開校(T10) ・東京音楽大学が雑司が谷に移転(T13) ・川村学園開校(T13)
昭和	・有楽町線開業(S49)
平成	・雑司が谷旧宣教師館開館(H1) ・目白庭園開園(H2) ・切手の博物館開館(H8) ・副都心線開業(H20)

②歴史・文化の変遷

江戸時代、雑司が谷の鬼子母神は、江戸市中から参詣、 遊興の場として人が集まり、名所としてにぎわいました。明治に入ると、現在文化人が多く眠る雑司ヶ谷霊園が開園し、大正期には私学最古の音楽大学である東京音楽大学が開校しました。

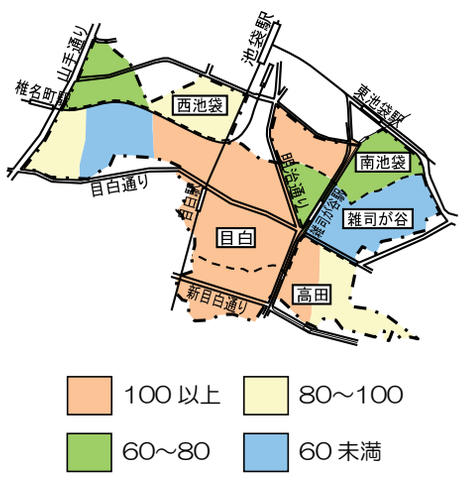
目白は、区内初の鉄道駅である目白駅が明治 18 年に開業すると、徐々に市街化が始まり、明治 41 年に学習院大学が移転してきた頃からにぎわいを見せ始めました。大正期には自由学園が開校し、現在でも自由学園明日館は貴重な歴史的建築物、文化遺産としてこの地域に高い価値を与えています。平成 8 年には、郵便文化の展示、保管、 研究を目的とする切手の博物館が開館しています。

③人口の構成と動き

総人口約 40,000 人、総世帯数 23,000 世帯で、地区全体の昼間人口は夜間人口の 1.5 倍で、特に学習院大学、企業や商業施設が集積する目白駅周辺や明治通り沿いは昼間人口が多くなっています。

平成 20 年に副都心線雑司が谷駅が開業したことで、流入人口の増加が期待されます。

■昼夜間人口比



昼夜間人口比=昼間人口／夜間人口×100

④土地利用、施設分布

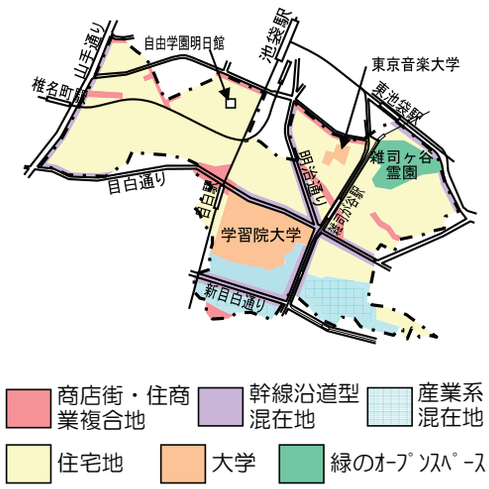
この地域は住宅地を主体に構成され、中央に位置する学習院の森と、東端の雑司ヶ谷霊園の森は、緑地面積の少ない区内の貴重な緑として親しまれています。

目白駅の周辺や目白通り、明治通りの沿道は商業地が形成され、この他、鬼子母神周辺など地域内の主要道路に商店街が形成されています。

新目白通り周辺の高田は、工場や作業所が立地する地域で、伝統工芸の東京手描き友禅が現在も息づいています。

また、文教の街として、学習院大学、東京音楽大学、川村学園があり、文化情報発信の場にもなっています。

■土地利用構成

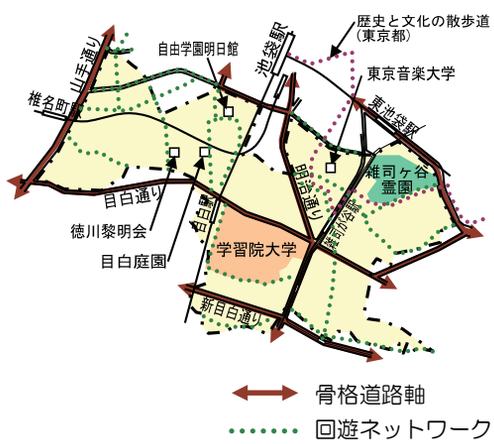


⑤交通・回遊ネットワーク

道路骨格は、目白通りが地域の中央を東西に通り、南北軸は山手通り、明治通りで構成されています。目白駅、東池袋駅があり、平成 20 年には雑司が谷駅が開業しました。都電荒川線も多くの人に利用されています。

目白庭園と自由学園明日館をつなぐ石畳、学習院椿の坂、 F.L. ライトの小路など、趣のある散策路があり、豊富な文化資源を地域全体としてアピールする回遊性の向上が期待されます。

■ネットワーク構成



⑥文化活動、イベント

雑司が谷では、鬼子母神の御会式が古くから地域の人々によって受け継がれてきました。雑司が谷地域文化創造館では、地域住民や大学等との連携・協働による文化活動を活発に展開しています。

目白では、自由学園明日館や目白庭園でも定期的なイベントが開催されています。また切手の博物館では、知的な楽しみとコミュニケーションを目的とした展示等が行われています。

■祭事・イベント開催地

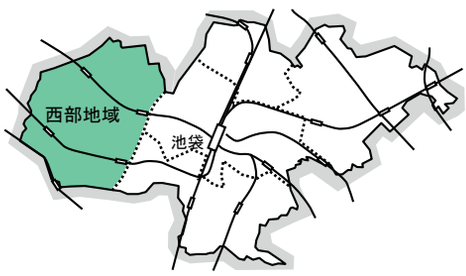
注：点は個別の祭事・イベントの開催数を示す

（５）西部地域

①地域の概況

池袋副都心の西側に広がる地域で、西武池袋線、地下鉄有楽町線、大江戸線の３路線の鉄道と山手通り、目白通りなどの幹線道路で骨格形成しています。

都市形成の過程で、池袋モンパルナスの独自の文化が花開いた歴史を有しています。



②歴史・文化の変遷

大正期まで農村地帯であった西部地域は、寺子屋を設けて庶民の教育文化に力を注いできた古刹・金剛院をはじめ、長崎神社、長崎・池袋の両富士塚、長崎獅子舞、冨士元囃子などの歴史文化資源や民俗芸能が受け継がれてきました。関東大震災後の急激な人口流入、市街化のなか、アトリエ付き住宅に多くの芸術家が移り住み池袋モンパルナスが形成されました。西部地域における文化の骨格はこの時期に作られたと言えます。

また、手塚治虫をはじめとする著名なマンガ家が集まったトキワ荘があった地でもあり、マンガファンの聖地にもなっています。

■代表的な歴史的トピック

～江戸	・金剛院開創 ・長崎神社建立
明治・大正	・西武池袋線開業(T4) ・耕地整理による基盤整備開始
昭和	・池袋モンパルナス全盛 ・トキワ荘にマンガ家集合 ・谷端川(S39)、千川上水(S45)暗渠化 ・有楽町線開業(S49)
平成	・大江戸線開業(H9) ・区立熊谷守一美術館開設(H19)

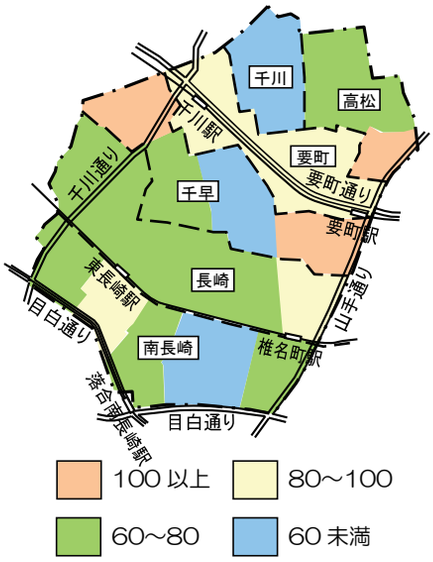
③人口の構成と動き

総人口約 67,000 人、世帯数約 39,000 世帯で、豊島区全体の約３割が居住しています。物価や家賃が比較的安く、住み良さや親しみやすさから、永く住み続ける人が多く、町会等の地域コミュニティも十分機能を果たしています。

要町駅や要町通り周辺に昼間人口が多く集まっていますが、居住地として優れているため、地域全体では昼間人口よりも夜間人口の方が多くなっています。

このような住みやすさが、池袋モンパルナスを形成する土台にもなったと考えられます。

■昼夜間人口比



昼夜間人口比=昼間人口／夜間人口×100

④土地利用、施設分布

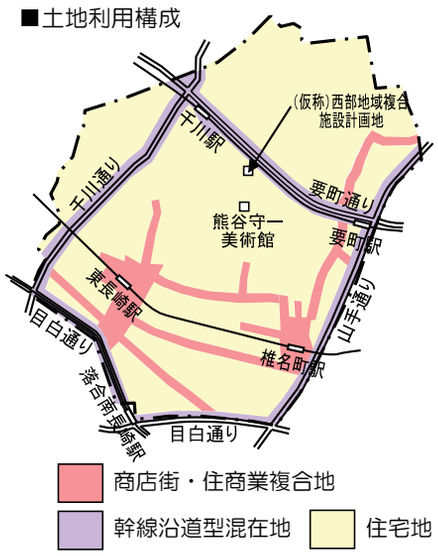
住宅地の中の主要な通り沿いや駅周辺に商店街が形成され、便利な地域密着型の商業地としてにぎわっています。

幹線道路の沿道では、商業・業務・住宅の複合利用が進み、新たな街の様相が形成されています。

池袋モンパルナスの面影を残すアトリエ付き住宅はわずかに残る程度ですが、モンパルナスの時代を生きた熊谷守一の美術館が地域中央に立地しています。

また、現在、地域の新たな拠点となる文化・行政・コミュニティ機能を集約した（仮称）西部地域複合施設の建設計画が進められています。

■土地利用構成



⑤交通・回遊ネットワーク

地域の骨格となる幹線道路や駅周辺整備が進んでおり、地域内は耕地整理により道路網が形成されています。その中の主要道路や暗渠化された旧谷端川が歩行者や自転車のネットワークになっています。

このようなネットワークや商店街などの連続性を活かして、新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館が展開されています。新たな文化景観軸と回遊ネットワークの形成に向けて、トキワ荘前の通り（仮称トキワ荘通り）の整備に期待が寄せられています。

■ネットワーク構成

⑥文化活動、イベント

千早地域文化創造館を拠点として、千早図書館や７箇所の区民ひろば等で文化活動が盛んに実施され、地域の若者によるイベント活動も行われています。長崎神社の例大祭をはじめ、長崎獅子舞や冨士元囃子などの民俗芸能の伝承活動、金剛院では豆まき大会（節分）等が行われています。

今後は既存の文化活動に加え、多くの区民やNPO等の地域団体が参加できる持続的な文化活動の展開が期待されます。

■祭事・イベント開催地

注：点は個別の祭事・イベントの開催数を示す